

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：33916

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K03110

研究課題名(和文) 卒後初期における理学療法士・作業療法士の臨床技能修得過程の解明

研究課題名(英文) Elucidation of the clinical skill acquisition process of physical and occupational therapists in the early post-graduation period

研究代表者

金田 嘉清 (Kanada, Yoshiaki)

藤田医科大学・保健学研究科・教授

研究者番号：50387669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は若手療法士の臨床技能獲得のプロセスを明らかにした。初年度は、複数の施設とともに客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)の実施環境を構築した。さらに、勤務1年目から3年目までの若手理学療法士・作業療法士を対象に、同一課題のOSCEを実施した。結果、経験年数で臨床技能に有意差がないことを明らかにした。次に、異なる課題のOSCEを実施し、身体機能練習よりも動作支援で臨床技能の習得度合いが低いことを明らかにした。最後は、同一対象者に3年間OSCEを定期実施し、経験年数を重ねることで臨床技能が向上することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、若手療法士の臨床技能獲得のプロセスとその要因について明らかにすることを目的としていた。本研究の結果、臨床技能を高めるには、臨床経験と臨床技能教育の双方が必要であり、特に動作指導や補助誘導に関する内容が重要と考えられた。加えて、継続した客観的臨床技能試験は、臨床技能の向上に寄与する可能性を示した。本研究は、若手療法士の技能習得プロセスの傾向を明らかにするために必要であり、若手療法士の卒後教育方法構築に寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to clarify the process of clinical skill acquisition among young therapists. In the first year, we addressed the issue of therapist education, consulted with some institutions, and established an environment for conducting Objective Structured Clinical Examination (OSCE). We conducted the OSCE in young therapists (physical therapists and occupational therapists) with one to three years of clinical experience, focusing on the same clinical skills. The results showed no significant differences in proficiency in clinical skills. In the second year, we conducted OSCE on different tasks and found a trend toward lower proficiency in assistance task compared to the exercise for improvement of physical function. In the final year, we continuously administered OSCE to the same therapists. The results showed that clinical skills improved with years of experience over a period of three years.

研究分野：リハビリテーション教育

キーワード：教育 理学療法士 作業療法士 臨床技能

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

近年、リハビリテーション医療の社会的需要が高まり続けており、その需要を満たすため、2019年度現在の理学療法士数は172,285名（2018年度理学療法士免許取得者10,809名）、作業療法士数は94,482名（2018年度作業療法士免許取得者4,531名）と急激に増加している。理学療法・作業療法は、リハビリテーション医学・医療を実践する臨床科学であり、科学的根拠に基づいた実践的活動を通して障害の克服を支援する。したがって、その発展と普及には適切な教育手法の開発が重要となる。

療法士の急激な増加は、臨床経験の少ない若手療法士が臨床現場の多くを占める状況を生んでいる。先行研究では、臨床現場における3年目以下の療法士は、約20%に達しているとしている。臨床技能の向上には、臨床経験も重要な要素の一つである。そのため、相対的に臨床経験の少ない若手療法士の増加に伴う臨床の質の低下を懸念する声もある。したがって、若手療法士の質の担保や有資格者全体の質の向上は重要な教育研究課題である。

今後構築していくべき教育体制として、臨床経験豊富な養成校教員の臨床参加が重要と考える。そして、臨床現場で若手療法士の臨床技術の把握と教育を行う必要がある。そのためには、養成校の卒前と卒後の一貫した標準的な臨床技術の教育が必要不可欠となる。

現在の卒後療法士教育は臨床現場の療法士に任されている。しかし、臨床技術の教育については全国の養成校で統一・標準化されていない。そのため、出身養成校によって臨床技術の獲得の程度が異なっていると考えられる。我々は、卒前と卒後の一貫した標準的な臨床技能教育が重要と考え、療法士に求められる標準的な臨床技能を体系化するとともに、その評価ツールとして、ルーブリックに基づいた療法士のための客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）を作成した。作成された療法士版OSCEによって、臨床技能の質的基準が定まり、臨床技能評価も可能となった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、療法士養成の質の保証に向けて、若手療法士の臨床技能獲得のプロセスと臨床技能に影響を与える要因について明らかにすることである。以下のように、年度ごとに具体的な目的を定めて、研究を実施した。

2020年度の目的は、若手療法士の臨床技能を評価するためのシステムを構築すること、若手療法士に対して同一の臨床技能課題のOSCEを実施し、経験年数ごとの臨床能力を明らかにすることとし、本研究の協力施設と連携して実施した。

2021年度の目的は、若手療法士に対して前年度の課題に加え、全5つの臨床技能課題のOSCEを実施し、技能別の習得傾向を明らかにすることとした。

2022年度の目的は、若手療法士に対して継続してOSCEを実施し、臨床技能習得過程の傾向を明らかにすることとした。

### 3. 研究の方法

#### 【2020年度】

本研究の協力施設である、複数のリハビリテーション病院の施設管理者と協働し、OSCE実施の環境整備、OSCEの実施課題、対象者となる若手療法士について検討を行った。データ取得までのスケジュールを作成し、OSCEの評価者教育を実施、解析を行うシステムを構築した。OSCEの課題は身体機能練習である関節可動域運動、筋力増強運動、動作の補助誘導練習である起き上がり動作、起立・着座動作、移乗動作とした。また、若手療法士（臨床経験1～3年目）に対して、同一の臨床技能課題としてのOSCEを実施し、経験年数別の臨床能力の違いを検討した。

#### 【2021年度】

若手療法士に対して、前年度の課題に加え、全5つの臨床技能課題としてのOSCEを実施し、経験年数別の習得している課題の違いを検討した。

#### 【2022年度】

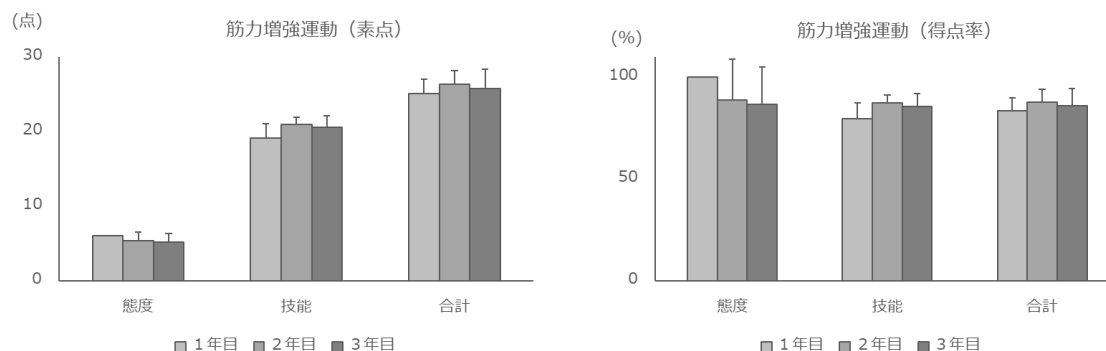
本研究の対象者に対して継続してOSCEを実施し、臨床経験の増加に伴う臨床技能習得課程を検討した。

#### 4. 研究成果

##### 【2020 年度】

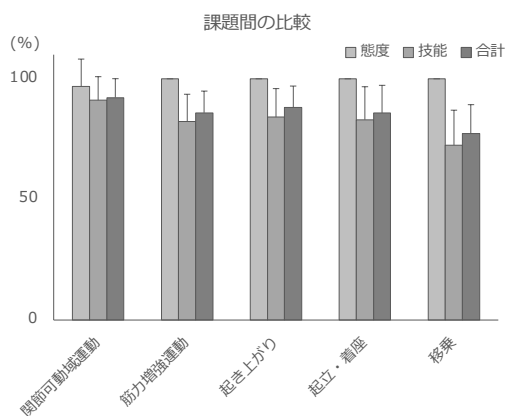
研究代表者らが作成した療法士版 OSCE を用いて、若手療法士の臨床技能獲得のプロセスと臨床技能に影響を与える要因を明らかにするため、協力施設の代表者と共に研究環境を構築した。具体的には、研究対象者の選定、実施する OSCE 課題の選定、年間の OSCE 実施スケジュールの作成を行った。

さらに、若手療法士（臨床経験 1～3 年目）に対して筋力増強運動の OSCE 課題を実施し、その結果を取得した。臨床経験 1 年目の療法士は、態度面に関するスコアは良好であるものの、臨床技能面に関するスコアは 2 年目、3 年目のスコアよりもやや低値を示す傾向であった。しかし、有意な差はなかった。



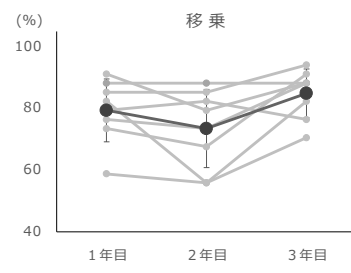
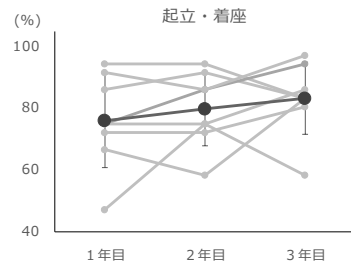
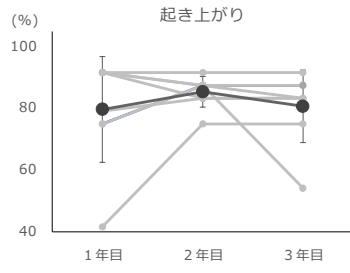
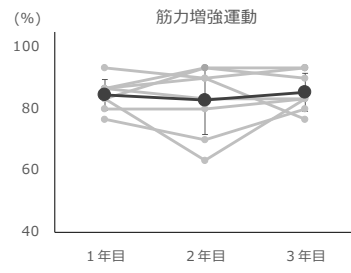
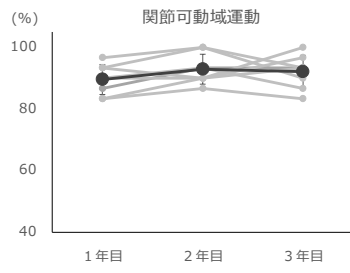
##### 【2021 年度】

若手療法士に対して、全 5 つの臨床技能課題における OSCE を実施し、その結果を取得した。経験年数に関わらず、臨床態度面は良好な成績を示した。臨床技能面では、一般的な身体機能練習である関節可動域練習は得点率 92%、筋力増強練習は 82%と良好な成績であり、身体動作補助誘導技能である起き上がり動作は 88%、起立・着座動作は 86%と、これらも良好な成績であった。しかし、車椅子からベッド間の移乗動作の補助誘導は、得点率 72%と低い傾向であった。



##### 【2022 年度】

これまでの研究対象者に対して継続した OSCE を実施し、データを取得した。その結果、一般的な身体機能向上練習である関節可動域練習や筋力増強練習はそれぞれ同等の成績を示し、有意な差はなかった。一方、身体動作補助誘導の技能は、起き上がり動作が臨床経験 2 年目で最も成績が良いが、起立・着座動作および移乗動作は経験年数が増えるほど、技能習得が向上する傾向を示した。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Fujimura Kenta, Sakurai Hiroaki, Koyama Soichiro, Takeda Kazuya, Ii Takuma, Suzumura Shota, Tanabe Shigeo, Kanada Yoshikiyo	4. 巻 11
2. 論文標題 Acquisition Status of Basic Clinical Skills in Japanese Novice Rehabilitation Therapists: A Preliminary Single-Center Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Healthcare	6. 最初と最後の頁 254 ~ 254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/healthcare11020254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	櫻井 宏明  (Sakurai Hiroaki)  (90387704)	藤田医科大学・保健学研究科・教授   (33916)	
研究分担者	小山 総市朗  (Koyama Soichiro)  (90754705)	藤田医科大学・保健学研究科・准教授   (33916)	
研究分担者	田辺 茂雄  (Tanabe Shigeo)  (50398632)	藤田医科大学・保健学研究科・教授   (33916)	
研究分担者	藤村 健太  (Fujimura Kenta)  (50780623)	藤田医科大学・保健衛生学部・講師   (33916)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松田 文浩  (Matsuda Fumihiro)  (30646998)	藤田医科大学・保健学研究科・講師    (33916)	
研究分担者	渡 哲郎  (Watari Tetsuro)  (40805305)	藤田医科大学・保健衛生学部・助教    (33916)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関